

消防年報

令和2年版



夕張市消防本部

は し が き

この年報は、令和2年中における夕張市の消防現勢及び火災・救急をはじめとする各種統計を収録したものです。

なお、この年報は特記したものを除き、令和2年12月31日現在で収録したものです。

令和3年9月

夕張市消防本部

目 次

1. 夕張市の現況と消防の沿革

(1) 地 勢	-----	1 頁
(2) 人口・世帯・消防職員数の推移	-----	2 頁
(3) 消防の沿革	-----	3 頁

2. 総 務

(1) 消防機構図	-----	18 頁
(2) 消防職員配置表	-----	19 頁
(3) 消防職員の勤続年数表	-----	20 頁
(4) 消防職員の年齢構成表	-----	20 頁
(5) 消防職・団員教育訓練等	-----	21 頁
(6) 消防職員特殊技能資格	-----	22 頁
(7) 消防団員配置表	-----	23 頁
(8) 消防団員の勤続年数表	-----	24 頁
(9) 消防団員の年齢構成表	-----	24 頁
(10) 叙位・叙勲・褒章受章者名簿	-----	25 頁

3. 警 防

(1) 車両配置表	-----	29 頁
(2) 無線局一覧		
①基地局	-----	30 頁
②固定局	-----	30 頁
③陸上移動局No. 1	-----	31 頁
③陸上移動局No. 2	-----	32 頁
(3) 消防水利	-----	33 頁
(4) 消防庁舎・分団詰所	-----	34 頁

4. 救急・救助

(1) 月別救急出動・搬送人員件数	-----	35 頁
(2) 曜日別救急件数	-----	36 頁
(3) 時間別救急件数	-----	37 頁
(4) 過去5年救急出動・搬送人員件数	-----	38 頁
(5) 傷病程度別搬送人員数	-----	39 頁
(6) 年齢区分別搬送人員数	-----	40 頁
(7) 救急講習実施状況	-----	41 頁
(8) 過去5年間救助件数	-----	42 頁

5. 予 防

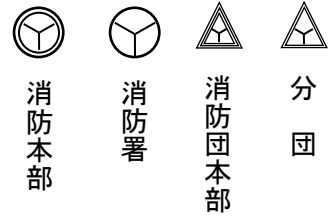
(1) 火災概況	-----	43 頁
(2) 月別火災状況	-----	44 頁
(3) 覚知別火災発生状況	-----	44 頁
(4) 原因別火災状況	-----	45 頁
(5) 過去5年間の地区別火災件数	-----	45 頁
(6) 過去10年間の火災状況	-----	46 頁
過去10年間における火災種別の割合	-----	46 頁
(7) 危険物製造所等の設置状況	-----	47 頁

(8) 危険物製造所等地区別設置状況	-----	48 頁
(9) 危険物製造所等許認可状況	-----	49 頁
(10) 手数料収入額状況	-----	49 頁
(11) 対象別避難訓練実施状況	-----	50 頁
(12) 防火管理者が必要な防火対象物及び防火管理者選任数	-----	51 頁
(13) 建築確認同意①(用途別・構造別)	-----	52 頁
②(地区別・用途別)	-----	52 頁
(14) 防火団体	-----	53 頁
(15) 予防技術資格者	-----	54 頁

1. 夕張市の現況と消防の沿革



(1) 地勢



(2) 人口・世帯・消防職員数の推移

人口・世帯数

人 口	男	3,447 人	7,430 人
	女	3,983 人	
世 帯 数			4,407 世帯

人口・世帯数・消防職員数の推移（過去20年分）

年 別 \ 区 分	人 口	世 帯 数	消防職員数
平成13年	15,081	7,391	55
平成14年	14,626	7,264	53
平成15年	14,134	7,092	53
平成16年	13,806	7,031	51
平成17年	13,417	6,867	50
平成18年	12,828	6,628	47
平成19年	12,198	6,392	38
平成20年	11,739	6,224	38
平成21年	11,355	6,128	40
平成22年	10,944	5,970	39
平成23年	10,588	5,833	40
平成24年	10,211	5,679	38
平成25年	9,801	5,476	39
平成26年	9,440	5,319	38
平成27年	9,056	5,183	40
平成28年	8,685	5,009	40
平成29年	8,362	4,876	41
平成30年	8,087	4,755	41
令和元年	7,769	4,586	40
令和2年	7,430	4,407	41

(3) 消防の沿革

明 治		
30年	7月	私立夕張第1砦消防組発足
35年	6月	本町1・2・3丁目火災 焼失戸数435戸 死者13名
	11月	公立登川消防組発足 棚橋久作氏が初代組頭に就任
39年	5月	本町4・5丁目火災 焼失戸数515戸
42年	4月	公立登川消防組2部制を採用
43年	8月	丁末1・2区火災 焼失戸数115戸
大 正		
3年	3月	本町4丁目火災 焼失戸数157戸
5年	5月	私設大夕張(南部)消防隊発足 並木松之助氏が隊長に就任
7年	2月	村名 夕張と改称 公立夕張消防組となる
8年	1月	公立紅葉山消防組発足 野瀬辰五郎氏が初代組頭に就任
9年	6月	大夕張(南部)義勇消防組発足 新豊利右衛門氏が組頭に就任
10年	5月	公立夕張消防組3部制を採用 水谷新次郎氏が二代目組頭に就任
11年	4月	本町4・5丁目火災 焼失戸数339戸
	5月	公立夕張消防組4部制を採用 南部立根氏が三代目組頭に就任 公立真谷地消防組発足 高橋善工門氏が初代組頭に就任 ガソリンポンプ1台購入 公立夕張消防組器具置場2か所新設
12年	12月	公立夕張消防組 成績優秀につき金馬簾1条使用許認 公立夕張消防組 中川平蔵氏が四代目組頭に就任
13年	7月	公立夕張消防組 田代末吉氏が五代目組頭に就任
14年	8月	公立夕張消防組 両角嘉平氏が六代目組頭に就任
	9月	大夕張義勇消防組を公立大夕張消防組に改組 小紙元春氏が初代組頭に就任
15年	4月	公立楓消防組発足 福原信俊氏が初代組頭に就任
	7月	公立夕張消防組 成績優秀につき各部全員金馬簾2条使用許認

昭 和		
2年	2月	高松1区火災 焼失戸数 119 戸
3年	1月	公立真谷地消防組 成績優秀につき金馬簾 1 条使用許認
	3月	公立真谷地消防組ガソリンポンプ 1 台購入
	4月	公立夕張消防組 特科部（破壊班）設置
4年	4月	高松1区火災 焼失戸数 165 戸
	8月	公立清水沢消防組発足 太田顕太郎氏が初代組頭に就任
	9月	公立夕張消防組第2部詰所 本町5丁目1条通りに新設 三菱大夕張鋳業所鹿島移転
	10月	私設三菱大夕張義勇消防組（3部制）発足 公立夕張消防組第3部を本町1丁目に新築移転
	11月	特科部器具置場を警察署前に設置
5年	11月	本町2丁目火災 焼失戸数 235 戸 三菱大夕張義勇消防組を公立大夕張消防組に合併改組 本部を千年町に置き3部制を採用（1部千年町、2部南部3部鋳業所）
6年	4月	公立沼の沢消防組発足 三好定太郎氏が初代組頭に就任
9年	9月	公立夕張消防組 常備制採用常備消防本部設置 岡村亀吉氏が初代本部長に就任（常備員9名） 公立大夕張消防組規律訓練優秀につき金馬簾 1 条使用許認
	10月	旭町火災 焼失戸数 194 戸 死者 1 名 ポンプ自動車 2 台購入 本部第2部に配置
10年	1月	公立夕張消防組 岡村亀吉氏が七代目組頭に就任
	5月	公立夕張消防組第2部本町4丁目に詰所を新築移転 望楼（14m）設置
12年	10月	公立夕張消防組常備消防本部長 岡村亀吉氏が退任 越田雪次郎氏が二代目本部長に就任
14年	4月	勅令「警防団令」公布により、公立夕張消防組を夕張警防団に改組 部落消防組を分団として統合 前田一氏が初代警防団長に就任（常備本部 17 名）
15年	3月	前田一氏が夕張警防団長を退任
	4月	能瀬荘吉氏が夕張警防団二代目団長に就任
	5月	大夕張警防団発足（大夕張分団が夕張警防団から独立） 山内亀三郎氏が初代団長に就任
16年	5月	山内亀三郎氏が大夕張警防団長を退任

	6月	片岡頼義氏が夕張警防団長二代目団長に就任
	7月	夕張警防団第2部増改築 常備本部を移転し、ポンプ自動車2台配置 第1部、第2部を本部に統合 夕張警防団第3部（本町1丁目）にポンプ自動車1台、常備員2名配置 夕張警防団清水沢分団にガソリンポンプ1台配置
	9月	ポンプ自動車1台購入 常備本部に配置
	12月	第7部（若菜）にポンプ自動車1台 常備員1名配置
17年	2月	能瀬荘吉氏が夕張警防団長を退任
	3月	夕張警防団3部制を採用（第1分団 鉱業所、第2分団 千年町 第3分団 南部） 宮崎猪三郎氏が夕張警防団 三代目団長に就任
18年	4月	市制施行 夕張警防団 鹿島警防団に改称
19年	8月	宮崎猪三郎氏が夕張警防団長を退任片岡頼義氏が鹿島警防団長を退任
	9月	万仲余所治氏が夕張警防団四代目団長に就任 松井栄氏が鹿島警防団三代目団長に就任
21年	1月	松井栄氏が三代目団長を退任
	2月	吉田重明氏が四代目団長に就任
	4月	吉田重明氏が四代目団長を退任
	5月	久保簾三氏が五代目団長に就任
22年	2月	久保簾三氏が五代目団長を退任
	3月	池田幸吉氏が六代目団長に就任
	4月	「警防団令」公布により、夕張警防団を夕張消防団に改称 越田雪二郎氏が初代団長に就任
	8月	鹿島警防団を鹿島消防団に改称 池田幸吉氏が初代団長に就任
23年	3月	越田雪二郎氏が夕張消防団長を退任
	4月	橘内末吉氏が団長職務代理に就任
	5月	末広に夕張消防団第5部詰所を新築 ポンプ自動車1台、常備員1名配置
	12月	夕張市消防団設置条例制定
24年	4月	夕張市消防団設置区域 組織に関する規制制定に伴い夕張消防団 9分団 定員403名 鹿島消防団6分団 定員245名に改組
	5月	本町1・2・3丁目火災 焼失戸数335戸 死者1名

		池田幸吉氏が鹿島消防団長を退任
	6月	石坂秀一氏が二代目団長に就任
	10月	橘内末吉氏が夕張消防団長職務代理者を退任
	11月	消防本部設置条例が制定され、消防本部及び消防署設置 菅原重太郎が初代消防長に就任 職員 57 名任用発令 福田正実氏が夕張消防団二代目団長に就任
25年	5月	石坂秀一氏が鹿島消防団長を退任
	6月	肥後国吉氏が三代目団長に就任 丁末分遣所、真谷地分遣所設置 ポンプ自動車各 1 台、職員各 1 名配置 清水沢市街火災 焼失戸数 52 戸
	10月	ポンプ自動車 1 台購入
	11月	清水沢分遣所設置 ポンプ自動車 1 台、職員各 1 名配置
26年	5月	肥後国吉氏が鹿島消防団長を退任
	6月	新井格二氏が四代目団長に就任
	9月	ポンプ自動車 1 台購入
27年	5月	真谷地市街火災 焼失戸数 121 戸 死者 1 名
28年	5月	南部分遣所設置 ポンプ自動車 1 台、職員各 2 名配置
	6月	空知消防操法訓練大会ポンプ車操法に中央分団が出場し準優勝
29年	4月	豪雨と融雪出水による水害 末広、鹿の谷、新千代田で浸水家屋 237 戸 新井格二氏が鹿島消防団長を退任
	5月	福原鉄夫氏が五代目団長に就任
	9月	台風 15 号による風害 全市で風害による被害家屋 367 戸
30年	2月	福原鉄夫氏が鹿島消防団長を退任
	3月	中山正人氏が六代目団長に就任
	4月	消防職員定数改正 (定員 80 名)
	12月	ポンプ自動車 2 台購入 丁末分遣所 南部分遣所に配置
31年	4月	中山正人氏が鹿島消防団長を退任
	5月	福田正氏が七代目団長に就任
32年	6月	ポンプ自動車 2 台購入 清水沢分遣所、沼の沢分団に配置
33年	4月	消防職員定数改正 (定員 95 名)
	7月	ポンプ自動車 2 台購入 若菜出張所、紅葉山分団に配置
	9月	台風 22 号による風水害 全市で風水害による被害家屋 261 戸

34年	4月	清水沢分遣所を出張所に改組 職員7名配置
	9月	菅原重太郎が消防長を退任
	10月	南正吉（消防本部次長）が消防長に就任 日本損害保険協会からポンプ自動車1台寄贈される
	12月	福田正氏が鹿島消防団長を退任
35年	1月	志茂山正蔵氏が八代目団長に就任
	2月	福田正実氏が夕張消防団長を退任
	3月	岩田信夫氏が三代目団長に就任
	4月	消防職員定数改正（定員99名）
	5月	千年分遣所設置 ポンプ自動車1台、職員2名配置
	6月	清水沢出張所庁舎 市職員住宅と併設し新築移転
	9月	消防本部庁舎新築 望楼、一斉指令電話（平和以北）設置
36年	1月	ポンプ自動車1台購入 本署に配置
	7月	福住分遣所設置 ポンプ自動車1台、職員2名配置 全市で集中豪雨による水害 被害家屋400戸
37年	2月	岩田信夫氏が夕張消防団長を退任
	3月	北村正久氏が四代目団長に就任
	4月	消防職員定数改正（定員102名）
	7月	鹿島消防団 消防庁長官から表彰状授与
	8月	台風9号による水害 全市で水害による被害家屋338戸
	10月	ポンプ自動車2台購入 本署、鹿島出張所に配置
38年	4月	消防専用無線電話装置設置 基地局4局、移動局10局
	7月	消防職員定数改正（定員105名）
	8月	志茂山正蔵氏が鹿島消防団長を退任 藤平寛氏が九代目団長に就任
	9月	紅葉山分遣所設置 職員2名配置
	12月	ポンプ自動車2台購入 清水沢出張所、若菜出張所に配置 鹿の谷分遣所を鹿の谷生活館（新築）に併設しポンプ自動車1台、職員2名配置
39年	1月	ポンプ自動車1台購入 本署に配置
	3月	消防本部 夕張消防団 消防庁長官から竿頭授与
	4月	市役所より救急車の移管を受け救急業務開始 末広分遣所廃止
40年	2月	ポンプ自動車2台購入 真谷地分遣所、楓分団に配置

	4月	消防職員定数改正（定員 106 名） 藤平寛氏が鹿島消防団長を退任
	5月	吉岡和夫氏が十代目団長に就任 沼の沢分遣所設置 ポンプ自動車 1 台、職員 1 名配置 紅葉山分遣所庁舎新築移転
	12月	ポンプ自動車 1 台購入 南部分遣所に配置
41年	1月	夕張消防団、鹿島消防団 北海道知事から竿頭授与
	3月	夕張消防団、鹿島消防団 消防庁長官から表彰旗授与
	8月	広報車購入 本署に配置 集中豪雨による水害 若菜以北で水害による被害家屋 835 戸
	11月	ポンプ自動車 1 台購入 本署に配置 南正吉が消防長を退任
	12月	夕張市助役の吉田久が消防長事務取扱に就任 若菜出張所庁舎新築移転
42年	4月	消防職員定数改正（定員 104 名）
43年	2月	ポンプ自動車 1 台購入 本署に配置 本署救急車を更新
	3月	南部分遣所庁舎新築移転
	4月	消防職員定数改正（定員 101 名）
	9月	吉岡和夫氏が鹿島消防団長を退任
	10月	小泉勤氏が十一代目団長に就任
	12月	水槽付ポンプ自動車 1 台購入 鹿島出張所に配置
44年	4月	消防職員定数改正（定員 99 名）
	11月	夕張市助役の吉田久が消防長事務取扱を退任
	12月	八反田政男（消防本部次長）が消防長に就任
45年	1月	ポンプ自動車 1 台購入 鹿島出張所に配置
	3月	登川駐在所庁舎新築移転 千代田中学校火災
	6月	指揮車購入 本署に配置
	11月	日本損害保険協会からポンプ自動車 1 台の寄贈を受け、沼の沢分遣所に配置
46年	8月	北村正久氏が夕張消防団長を退任
	9月	安達敏雄氏が五代目団長に就任

		ポンプ自動車 1 台購入 鹿島出張所に配置
		小泉勤氏が鹿島消防団長を退任
	1 0 月	浅山五生氏が十二代目団長に就任
4 7 年	1 2 月	安達敏雄氏が夕張消防団長を退任
4 8 年	1 月	高山泰氏が六代目団長に就任
	3 月	ポンプ自動車 1 台購入 本署に配置
	4 月	乗用車 1 台購入 本署に配置
	8 月	災害用救命ボート購入 本署に配置
	1 0 月	ポンプ自動車 2 台購入 清水沢出張所、菊水分団に配置
	1 1 月	浅山五生氏が鹿島消防団長を退任
	1 2 月	佐藤健一氏が十三代目団長に就任
4 9 年	3 月	登川駐在所を楓分遣所に改組 職員 2 名配置
	4 月	南部分遣所を出張所に改組 職員 4 名配置 菊水分遣所設置 ポンプ自動車 1 台、職員 2 名配置
	1 1 月	沼の沢分遣所庁舎新築移転 職員 2 名配置 ポンプ自動車 1 台購入 南部出張所に配置
	1 2 月	福住分遣所廃止
5 0 年	4 月	消防職員定数改正 (定員 96 名)
	7 月	北海道消防操法訓練大会小型ポンプ操法に中央分団が出場し準優勝
	8 月	八反田政男が消防長を退任
	9 月	鶴川伸 (水道部長) が消防長に就任 一丁目分遣所庁舎新築
	1 1 月	ポンプ自動車 1 台購入 本署に配置 旧北陵中学校火災
5 1 年	3 月	末広分団器具置場新設 ポンプ自動車 1 台配置
	6 月	佐藤健一氏が鹿島消防団長を退任
	7 月	太田好彦氏が十四代目団長に就任
5 2 年	8 月	千年分遣所廃止
	1 0 月	救急車 (2B 型) 1 台購入 清水沢出張所に配置
	1 1 月	南部出張所庁舎新築移転 職員 8 名配置 菊水分遣所廃止 電話普及により火災報知機撤去
5 3 年	1 月	ポンプ自動車 1 台購入 南部出張所に配置

	4月	消防職員定数改正（定員 94 名）
	8月	高山泰氏が夕張消防団長を退任
	9月	品川義雄氏が七代目団長に就任
	10月	消防職員待機住宅 1 棟 4 戸新築（南部東町） 夕張市消防音楽隊発足（隊員 27 名）
	12月	丁末分遣所廃止
54年	1月	富野分団詰所移転改修 ポンプ自動車 1 台配置
	2月	ポンプ自動車 1 台購入 清水沢出張所に配置
	4月	消防職員定数改正（定員 91 名）
	5月	鷓川伸が消防長を退任
	6月	中村克好（市長公室長）が消防長に就任
	11月	滝の上分団詰所新築移転 消防職員待機住宅 1 棟 4 戸新築（南部東町）
55年	1月	ポンプ自動車 1 台購入 本署に配置
	5月	太田好彦氏が鹿島消防団長を退任
	6月	安月允也氏が 15 代目団長に就任
	9月	日本損害保険協会からポンプ自動車 1 台の寄贈を受け真谷地分遣所に配置
	10月	真谷地分遣所庁舎新築移転
	12月	ポンプ自動車 1 台購入 本署に配置
56年	4月	消防署の組織に関する規程（以下、署組織規程）改正 清水沢出張所、南部出張所を支署に改組
	7月	北海道消防ポンプ車操法に清水沢分団が出場し準優勝
	10月	ポンプ自動車 1 台購入 紅葉山分遣所に配置
	11月	沼の沢分遣所ホース乾燥塔 サイレン塔新設 品川義雄氏が夕張消防団長を退任
	12月	石川十四夫氏が八代目団長に就任
57年	4月	消防職員定数改正（定員 83 名）
	7月	中村克好が消防長を退任（総務部長発令） 小椋正一（民生部長）が消防長に就任
	10月	富野分団サイレン塔新設 ポンプ自動車 1 台購入 沼の沢分遣所に配置
58年	3月	安月允也氏が鹿島消防団長を退任
	4月	星靖男氏が十六代目団長に就任

		消防職員定数改正（定員 80 名）
	10月	清水沢支署庁舎及び待機宿舎新築移転 同支署に通信指令室を設置 消防緊急指令装置及びサイレン吹鳴遠隔装置を導入
	11月	ポンプ自動車 1 台購入 楓分遣所に配置
	12月	鹿島出張所新築移転 夕張南高等学校火災
59年	4月	消防職員定数改正（定員 78 名）
	5月	三菱南大夕張炭鉱下請従業員宿舎火災（鹿島栄町） 保険金目当ての放火による出火 消防職員 1 名殉職
	6月	指揮車購入 本署に配置
	8月	ポンプ自動車 1 台購入 一丁目分遣所に配置
	9月	日本損害保険協会から救急車(2B 型) 1 台が寄贈され清水沢支署に配置
	10月	夕張消防団夕張新炭鉱分団を清陵宮前分団へ改称
60年	9月	ポンプ自動車 1 台購入 鹿の谷分団に配置
	11月	署組織規程改正 一丁目分遣所、鹿の谷分遣所、真谷地分遣所を廃止、分団へ移行
61年	4月	消防職員定数改正（定員 73 名）
	9月	ポンプ自動車 1 台購入 南部分団に配置
	11月	消防署組織の規程改正 楓分遣所を廃止分団へ移行 小椋正一が消防長を退任
	12月	夕張市助役 中村克好が消防長事務取扱に就任
62年	5月	夕張市助役 中村克好氏が消防長事務取扱を退任
	6月	夕張市助役 梶田秀男が消防長事務取扱に就任 夕張市助役 梶田秀男が消防長事務取扱を退任 星靖男氏が鹿島消防団長を退任
	7月	佐々木茂（消防署長）が消防長に就任 野田眞氏が十七代目団長に就任
	9月	末広分団車庫増築 消防職員定数改正（定員 67 名） ポンプ自動車 1 台購入 若菜出張所に配置
	11月	幌南分団詰所新築
	12月	若菜出張所庁舎新築移転 救急車更新 本署に配置

63年	4月	署組織規程改正 若菜出張所、鹿島出張所を分遣所へ移行 夕張消防団長 石川十四夫氏が北海道消防協会長に就任
	5月	夕張消防団長 石川十四夫氏が日本消防協会副会長に就任
	6月	第40回北海道消防大会開催（於 夕張市総合体育館）
	8月	日本消防協会から指令広報車1台が寄贈され清水沢支署に配置
	10月	消防職員定数改正（定員65名）
	11月	広報原調車購入 本署に配置 水槽付消防自動車購入 清水沢支署に配置
平成		
元年	9月	ポンプ自動車1台購入 中央分団に配置
	11月	鹿の谷分団詰所新築
2年	7月	野田眞氏が鹿島消防団長を退任
	8月	日本消防協会から救急車（2B型）1台が寄贈され清水沢支署に配置 日本消防協会から婦人消防隊に軽可搬ポンプ2台が寄贈される
	9月	ポンプ自動車1台購入 幌南分団に配置
	10月	消防職員定数改正（定員63名） 日本損害保険協会から水槽付消防自動車1台が寄贈され本署に配置
	11月	夕張消防団条例改正 鹿島消防団が夕張消防団に統合 菊水分団を廃止 1本部15分団 定員387名に改組 夕張消防団に初の女性消防団員30名入団
3年	8月	日本消防協会から婦人消防隊に軽可搬ポンプ1台が寄贈される
	9月	ポンプ自動車1台購入 滝の上分団に配置
	10月	消防職員定数改正（定員60名） 第7回全国婦人消防操法大会に婦人消防隊出場（横浜市）
4年	9月	ポンプ自動車1台購入 富野分団に配置
	10月	消防職員定数改正（定員58名）
	11月	富野分団詰所新築 サイレン吹鳴遠隔装置更新
5年	9月	第17回婦人防火全国大会開催（於 夕張市総合体育館） ポンプ自動車1台購入 沼の沢分遣所に配置
	10月	佐々木茂が消防長を退任
	11月	竹村弘二（消防本部次長）が消防長に就任

1 2 月	署組織規程改正 南部支署を清水沢支署に統合 南部分遣所に改組
6 年 1 1 月	署組織規程改正 沼の沢分遣所を廃止、分団へ移行
7 年 3 月	竹村弘二が消防長を退任
4 月	石井忍（消防本部次長）が消防長に就任 夕張市消防本部及び消防署設置条例改正 消防本部及び消防署を清水沢宮前町（旧清水沢支署を増築）へ移転 署組織規程改正 清水沢支署を消防署に消防署を本町支署に、清水沢支署南部分遣所を消防署南部分遣所に、清水沢支署紅葉山分遣所を消防署紅葉山分遣所に改組 鹿島分遣所を廃止、分団へ移行
1 1 月	消防団条例改正 夕張消防団を夕張市消防団に改称
1 2 月	若菜分遣所を廃止、分団へ移行
8 年 1 月	沼ノ沢 4 部にサイレン 1 基増設
3 月	紅葉山分遣所を紅葉山 165 番地から紅葉山 117 番地に新築移転
1 1 月	在宅老人緊急通報システム本署通信指令室に設置 ポンプ自動車 1 台購入 本署へ配置 救急自動車（2B 型）1 台購入 本町支署に配置
1 2 月	消防本部庁舎（43.06 m ² ）を増築
9 年 6 月	石井忍が消防長を退任
7 月	藤村吉彦（消防署長）が消防長に就任 指令車 1 台購入 本部へ配置 北海道消防操法大会ポンプ車操法に夕張市消防団が出場し準優勝
1 0 年 3 月	藤村吉彦が消防長を退任 石川十四夫氏が団長を退任
4 月	板谷義昭（消防本部次長）が消防長に就任 大西巖夫氏が団長に就任 大夕張分団が解団 1 本部 14 分団 定員 366 名に改組
1 1 年 1 0 月	道東自動車道 千歳、夕張間開通 高速自動車道事故対策訓練実施
1 2 年 1 月	火災原因調査車 1 台購入 本部に配置
3 月	高規格救急自動車 1 台購入 本署に配置 板谷義昭が消防長を退任

	4月	菅井信治（産業経済部長）が消防長に就任
	7月	清陵宮前分団が解団 1本部 13分団 定員 350名に改組
	11月	梯子自動車（15m）1台購入 本署に配置
13年	4月	中央分団詰所を本町支署へ移設 南部分遣所を廃止、分団へ移行
14年	1月	資機材搬送車（クレーン付、2t車）1台購入 本署に配置
	3月	菅井信治が消防長を退任
	4月	渡邊孝紀（消防本部次長）が消防長に就任 本町支署を本町出張所に改称 本町支署の救急2号車を引揚げ、本署に配置
	6月	石狩川水防公開演習に夕張市消防団 23名参加
	9月	夕張消防公設 100年記念事業実施
15年	6月	本町地区サイレン移設
	11月	自治体消防 55周年記念大会出席
16年	9月	台風 18号の暴風により全市で家屋被害、長時間停電被害、農業、土木、 観光施設被害等 117棟
	12月	低気圧の暴風・大雪による長時間に渡る停電被害
17年	3月	渡邊孝紀が消防長を退任
	4月	佐藤公穂（消防本部次長）が消防長に就任
	9月	夕張市防災訓練実施
18年	1月	指揮広報車購入 本署に配置
	2月	水槽付き消防ポンプ自動車Ⅱ型購入 本署に配置
	4月	南部分団と幌南分団が統合 1本部 12分団 定員 350名に改組
	10月	紅葉山分団と楓分団が統合 1本部 11分団 定員 350名に改組 夕張市消防本部の組織に関する規則（以下、本部組織規則）及び署組織 規程改正
	12月	夕張市消防音楽隊廃止
19年	3月	佐藤公穂が消防長を退任
	4月	鷲見英夫（消防本部次長）が消防長職務代理を就任 本部組織規則及び署組織規程改正 消防本部に防災係、消防署に庶務・団係新設 本町出張所を廃止、分団へ移行 紅葉山分遣所を廃止、分団へ移行 中央分団と末広分団が統合し中央末広分団へ 1本部 10分団

		定員 260 名に改組
20年	9月	真谷地分団と沼の沢分団が統合 1本部9分団 定員 260 名に改組
	4月	若菜分団と鹿の谷分団が統合し、若鹿分団へ 1本部8分団 定員 260 名に改組
	9月	大西巖夫氏が団長を退任
	10月	小西真三氏が団長に就任
		JA 共済連北海道本部及びホーチキ株式会社から救急自動車並びに救急 資機材寄贈 高規格救急車にぎ装 本署に配置
21年	4月	鷺見英夫（消防長職務代理）が消防長に就任
	6月	夕張市消防本部に防災倉庫新築
	7月	機構改革により消防グループ制導入
	10月	高規格救急車購入 本署に配置
22年	1月	消防署隣接地にヘリポートを整備 旧本町出張所を解体
	4月	夕張市消防長の任命資格を定める条例制定
	5月	大型水槽車購入 本署に配置
	12月	消防ポンプ自動車（CD-I型）購入 若鹿分団に配置
23年	3月	東日本大震災により緊急消防援助隊として職員3名派遣
	5月	東京消防庁新井総監が夕張・東京交流事業のため視察
	7月	訓練塔設置
	10月	道東自動車道 夕張、占冠間開通 高速自動車道事故対策訓練実施
	12月	消防ポンプ自動車（CD-I型）購入 紅葉山分団に配置
24年	1月	夕張・東京協力事業の開始 東京消防庁から派遣職員6名が市内におい て消防事情調査を実施 夕張市消防本部から1名が東京消防庁消防学 校において研修を聴講
	4月	女性分団発足 菅原光子氏が初代分団長に就任
	12月	消防ポンプ自動車（CD-I型）購入 中央末広分団に配置 鷺見英夫が消防長を退任 増井佳紀（消防本部次長）が消防長に就任
25年	1月	東京消防庁との協力・交流事業 東京消防庁から派遣職員6名が市内に おいて消防事情調査を実施 夕張市消防本部から2名が東京消防庁消 防学校において研修を聴講し、八王子消防署で実務研修を行う

3月	夕張市防災講演会を実施（於 清水沢地区公民館）
12月	消防ポンプ自動車（CD-I型）購入 沼の沢分団に配置
26年 1月	東京消防庁との協力・交流事業 東京消防庁から派遣職員4名が市内において消防事情調査を実施 夕張市消防本部から2名が東京消防庁消防学校において研修を聴講し、八王子消防署で実務研修を行う 夕張市防災マップを作成
11月	東京消防庁との協力・交流事業 東京消防庁から派遣職員4名が市内において消防事情調査を実施 夕張市消防本部から2名が東京消防庁消防学校において研修を聴講し、八王子消防署で実務研修を行う
12月	高機能消防指令システム運用開始 消防ポンプ自動車（CD-I型）購入 富野分団に配置
27年 1月	消防デジタル無線運用開始
12月	消防ポンプ自動車（CD-I型）購入 滝の上分団に配置
28年 4月	機構改革により課制に移行
9月	小西真三氏が団長を退任
10月	阿部広昭氏が団長に就任
29年 1月	消防ポンプ自動車（CD-I型）購入 南部分団に配置 札幌市消防局との交流事業 夕張市消防本部から4名が札幌市消防局において現場に即した研修を受講
10月	高規格救急車購入 本署に配置
30年 1月	消防ポンプ自動車（CD-I型）購入 清水沢分団に配置
9月	北海道胆振東部地震 北海道広域消防相互応援協定により職員7名派遣
31年 3月	緊急消防援助隊設備整備費補助金により、屈折はしご付消防自動車購入 本署に配置 訓練場に車両車庫新設 水槽付消防ポンプ自動車水I-A型購入 本署に配置
4月	地区人口の減少により、1本部9分団、定数195名に改組 石炭博物館模擬坑道火災 4月18日から5月13日まで北海道開発局、北海道広域消防相互応援協定により広域応援隊として道央地区19消防本部が出動

令和	
2年 10月	消防本部及び消防署において、新型コロナウイルス感染症の集団感染（クラスター）が発生。消防体制の確保が困難となったため「北海道広域消防相互応援協定」に準じ10月15日から29日までの間、道央地区18消防本部から延べ116隊367名の広域応援隊が派遣された。
11月	高規格救急車購入 消防署に配置